

学習塾と公教育の連携 全国学習塾協会が大阪・大東市の学力向上推進事業を受託

大阪府大東市の要請を受け、公益社団法人全国学習塾協会が同市の施設において学力向上推進事業を行っている。これは大東市「学力向上ゼミ」という名称の委託事業で今年四年目。市内の小学四～六年生と中学生の学力向上を確かにするため算数、英語、数学を年間通して実施している。

協会への委託事業となった点については、特定の企業に有利にならないよう心がけた結果、塾業界で公の団体を探すことになり、協会にたどり着いたとのことだった。



定員を急遽増やし1クラス48人に！

**今年度より規模を拡大
対象を市内全小中学校へ**

土曜日の朝、大阪府大東市役所横にある市民会館には小学生が続々と集まってきた。ある子は保護者に送られて、ある子は自転車で、また友達同士で……
子ども達を追って建物に入ると部屋の前にはすでに長蛇の列。宿題である算数のテキストを持って並ぶ子ども達の先にはそれをチェックする先生。これは大東市が行っている学力向上推進事業



小学生クラスの授業風景

(学力向上ゼミ)の一場面だ。
この学力向上ゼミは市内二ヶ所にある青少年教育センターの事業として平成二二年度に始まったもので、当初は特定地域の小学

校六年生と中学生を対象にしていた。二三年度からは前年の実績を基に、対象範囲を小学生四年生からに拡大。会場も増やし、今年度は市内三会場で実施されている。午前中は小学生の算数が、午後からは中学生の英語と数学が行われ受講料の自己負担は月千円(中学生は二千円)とテキスト代のみ。受講希望者は年々増加しており、抽選で受講者を決めている。会場の一つである市民会館では当初二四名だった一クラスの定員を急遽倍増させたが、それでも抽選に漏れ受講できない子どもがいる。

講師は公益社団法人全国学習塾協会の会員塾から派遣され、一年間のカリキュラム作成も協会側が行う。中学生は数学と英語を、小学生は算数を毎週土曜日に一時限ずつ、年間で計四四回のカリキュラムとなっている。

授業方法は、個別指導ではなく講師が授業を行う集団指導。この学力向上ゼミは「各学校での授業における予習的な位置づけ」とされており、募集時にもそ

れを謳っている。学力別のクラス分け等は行っていないため授業に付いてこられない子どもも当然出てくるが、ゼミの後に学校で同じ単元をもう一度学習するため全く問題はない。週一回という僅かな時間ではあるが、ゼミの授業である程度要点を学習するため、これまでの受講生からは「学校の授業が理解できた！」という声や「成績アップにつながった」という声も上がっているとのことだ。

協会の祖父江準理事に尋ねたところ、やはり当初はそういった意見もあったとのこと。しかし、たとえこのゼミを受講していても塾に通う子は通うだろうし、実際に塾と併用している子どもも多いという。「もし週に一

学生に至っては出席すらしなくなるためすぐにわかるそう。

**ゼミを「楽しい」と
言う子ども達**

実際に受講している子ども達の声を拾ってみると、受講動機は「昨年も受講して良かったから」「親に是非に行けと言われたから」「友達に誘われて」「絶対に納得だと言われた」などといったもの。受講料の自己負担がかなり安く設定されているせいか、「安いから」「お得だから」という本音の言葉が出てくるのはさすが大阪といったらところだろうか。

ゼミの授業については「わかりやすい」や「学校の先生に褒められた」「苦手だった算数だけじゃ学校の先生には『算数好きなの?』と聞かれた」と、嬉しそうに感想を話してくれた。今年度のゼミは五月にスタートしており、取材に訪れたのは今年度二回目の授業日。子ども達はまだ一度しか授業を受けていない状態だったが、その一度の受講でも子ども達の心がしっかりと掴んでいる様子がみとれた。



身を乗り出して授業を聞く子ども

民業圧迫にはならないのか?

予習のためのゼミを市が行うことについて、また、その事業を学習塾に委託することについて塾業界内や協会会員塾から批判はないのだろうか?

初年度こそ準備時間が足りず講師手配で若干の不備があったそうだが、現在は協会側で講師の適性を見極め、大東市に教室を持つ塾を外すなどの配慮をしているという。万が一、指導力不足の講師が授業をした場合には、小学生なら授業を聴かなくなりクラス全体が騒がしい雰囲気になるし、中



出席確認も兼ねた宿題チェック一人ひとり丁寧にしている